1 iStorage NSの初期設定を行う

iStorage NS はヘッドレスシステムであり、ディスプレイ、マウス、キーボードなしで操作可能です。iStorage NS の設定・管理は同一ネットワーク上にある管理 PC で、リモートデスクトップを起動して行ないます。そのため、iStorage NS の管理用に iStorage NS とは別に Windows マシンが必要となります。

iStorage NS 本体に、ディスプレイ、マウス、キーボードを接続して保守を行なうことも可能です。

本章では、iStorage NS のお客様の環境への導入時と、導入後の運用時に管理者が行なう事項について、全体の流れを概観します。本章で全体の流れを把握し、ユーザーズガイド、および本ガイドの各章で詳細を参照しながら導入・運用を行なってください。

1.1 iStorage NS導入準備

1.1.1 LAN運用環境

LAN の運用について以下の情報をネットワーク管理者とご相談の上決定してください。

- ネットワークへの接続形態（ワークグループとして接続するか、既存のドメインに参加するか）
- IPアドレスの設定方式（ＤＨＣＰサーバーを使用するかどうか）
- コンピュータ名
- ワークグループ名
- 管理者のパスワード
- IPアドレスとマスク値（IPアドレスを直接指定する場合）
- デフォルトゲートウェイ（IPアドレスを直接指定する場合）
- DNSサーバーのIPアドレス（DNSサーバーを直接指定する場合）

1.1.2 ネットワーク構成

複数のＬＡＮアダプタでグループを作ることで、ネットワークの負荷分散および冗長化を行うことができます。以下の負荷分散・冗長化機能のほかに、装置搭載の LAN アダプタにより異なる処理を行う機能もあります。詳細は装置添付のユーザーズガイドを参照してください。

Adapter Fault Tolerance (AFT)

複数のアダプタでグループを作り、使用されているアダプタに障害が発生した場合に自動的にグループ内の他のアダプタに処理を移行させせます。

Adaptive Load Balancing (ALB)

複数のアダプタでグループを作り、コンピュータからの送信パケットをグループすべてのアダプタから行なうことにより、スループットを向上させます。受信処理は１枚のアダプタのみで行なわれますが、このアダプタに障害が発生した場合は自動的にグループ内の他のアダプタに受信処理を移行させせます。

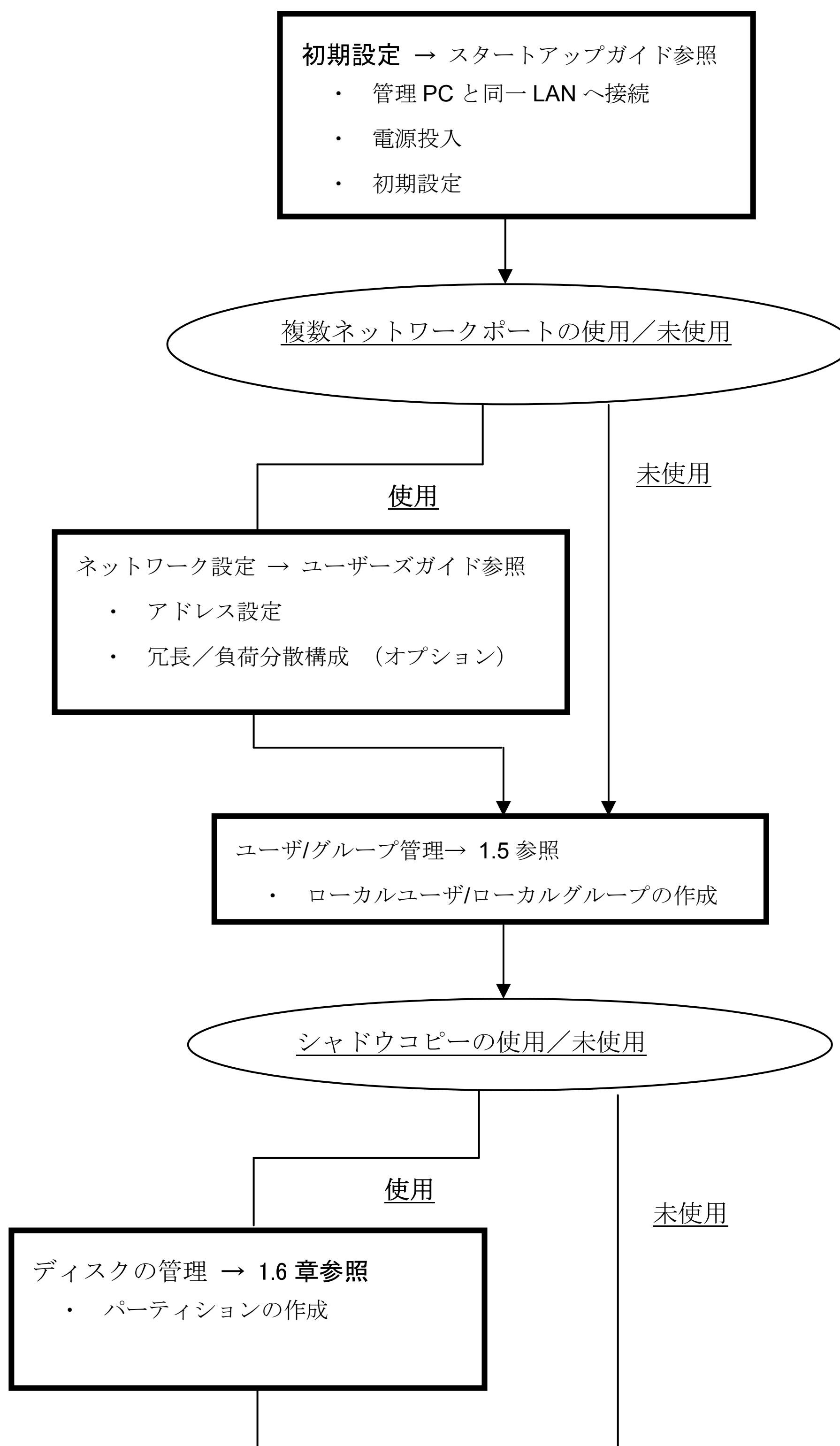
1.2　初期設定

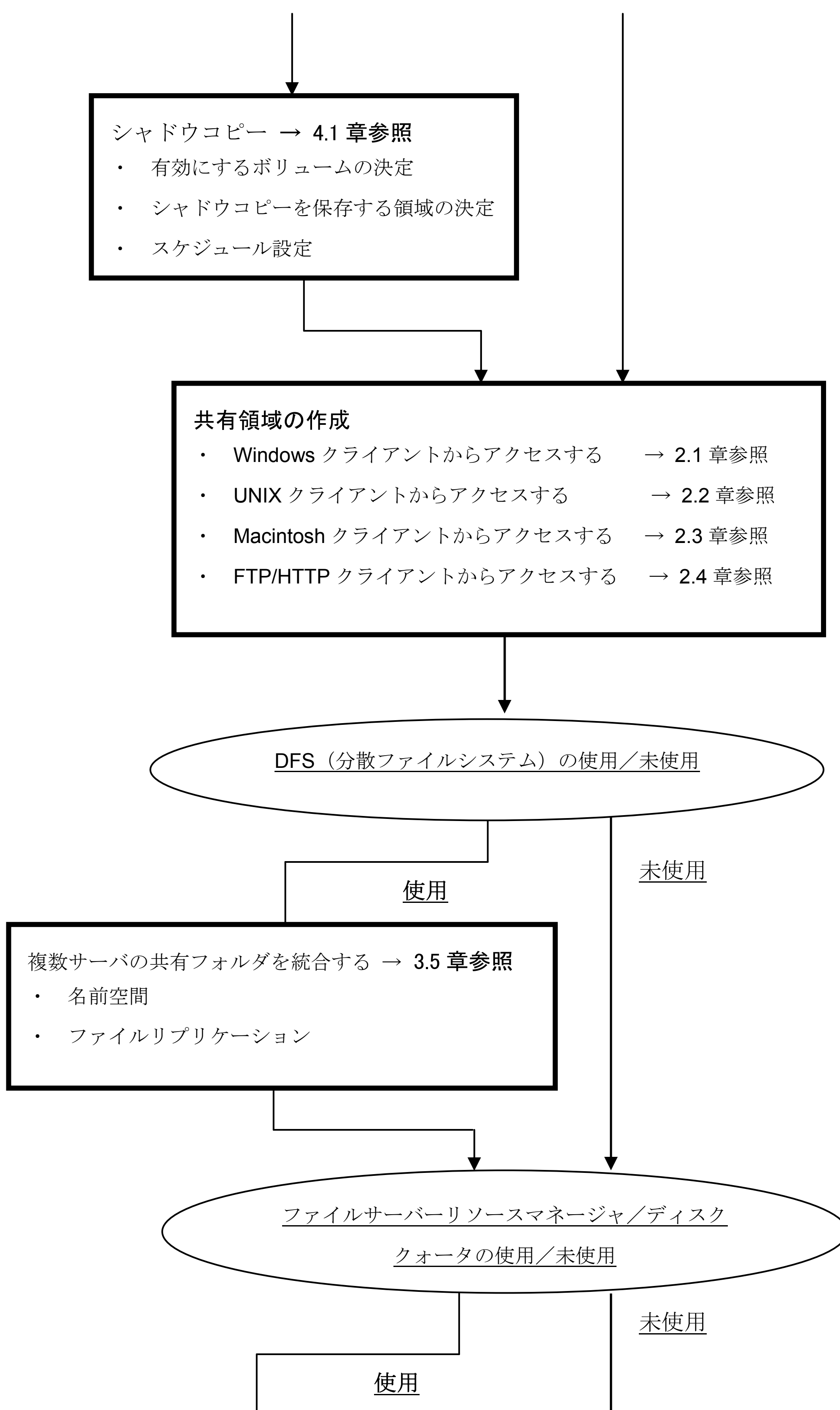
iStorage NS のセットアップでは専用の初期設定ツールを使用して、IP アドレス、サブネットマスク、コンピュータ名を設定します。初期設定ツールは EXPRESSBUILDER / EXPRESSBUILDER(SE) 内にあります。管理 PC として使用するマシン (Windows2000＋IE6 / XP / 2003 / Vista / 2008) の CD-ROM ドライブにセットしてご使用ください。なお、iStorage NS を複数導入する場合でも、初期設定は 1 台ずつ行なってください。

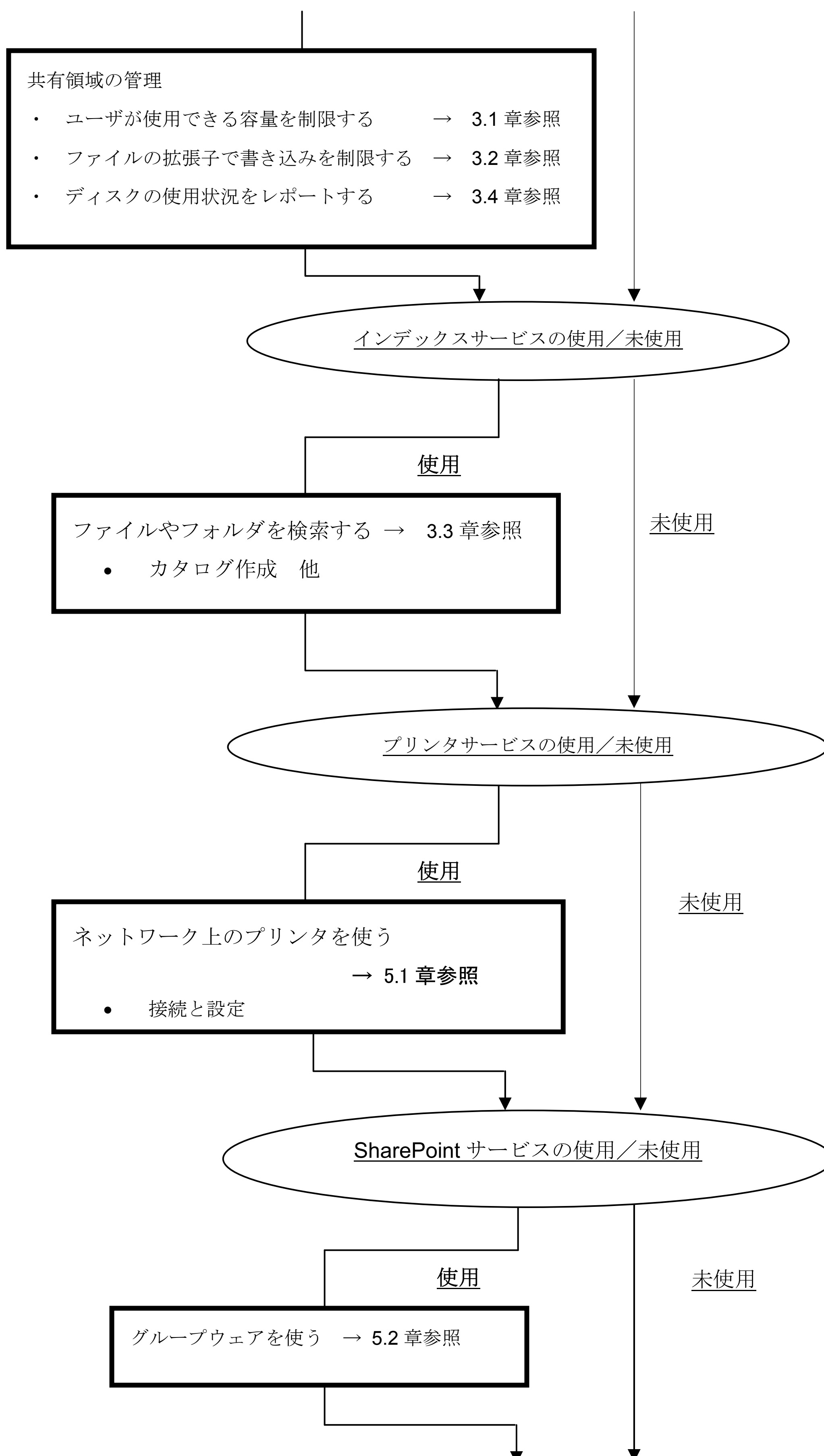
初期設定ツールの使用方法については、装置添付のスタートアップガイドを参照してください。

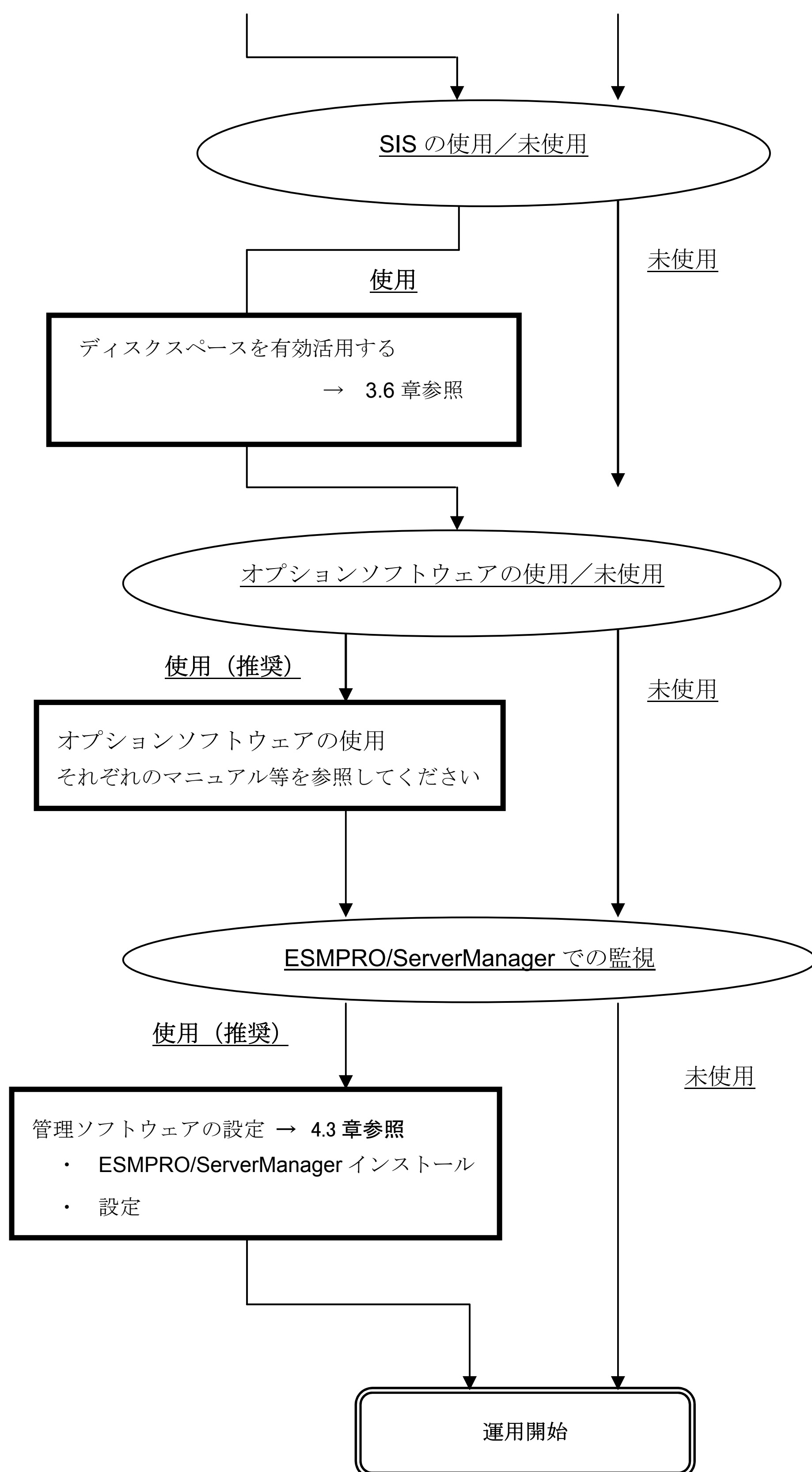
1.3 導入の流れ

iStorage NS を導入する際は、以下の流れに従います。




シャドウコピー → 4.1 章参照
・ 有効にするボリュームの決定
・ シャドウコピーを保存する領域の決定
・ スケジュール設定
共有領域の作成
・ Windows クライアントからアクセスする → 2.1 章参照
・ UNIX クライアントからアクセスする → 2.2 章参照
・ Macintosh クライアントからアクセスする → 2.3 章参照
・ FTP/HTTP クライアントからアクセスする → 2.4 章参照
DFS（分散ファイルシステム）の使用／未使用
使用
未使用
複数サーバの共有フォルダを統合する → 3.5 章参照
・ 名前空間
・ ファイルリプリケーション
ファイルサーバーリソースマネージャ／ディスククォータの使用／未使用
使用
未使用


共有領域の管理
・ ユーザが使用できる容量を制限する → 3.1 章参照
・ ファイルの拡張子で書き込みを制限する → 3.2 章参照
・ ディスクの使用状況をレポートする → 3.4 章参照
インデックスサービスの使用／未使用
使用
未使用
ファイルやフォルダを検索する → 3.3 章参照
• カタログ作成 他
プリンタサービスの使用／未使用
使用
未使用
ネットワーク上のプリンタを使う
→ 5.1 章参照
• 接続と設定
SharePoint サービスの使用／未使用
使用
未使用
グループウェアを使う → 5.2 章参照


SIS の使用／未使用
使用
未使用
ディスクスペースを有効活用する
→ 3.6 章参照
オプションソフトウェアの使用／未使用
使用（推奨）
未使用
オプションソフトウェアの使用
それぞれのマニュアル等を参照してください
ESMPRO/ServerManager での監視
使用（推奨）
未使用
管理ソフトウェアの設定 → 4.3 章参照
・ ESMPRO/ServerManager インストール
・ 設定
運用開始

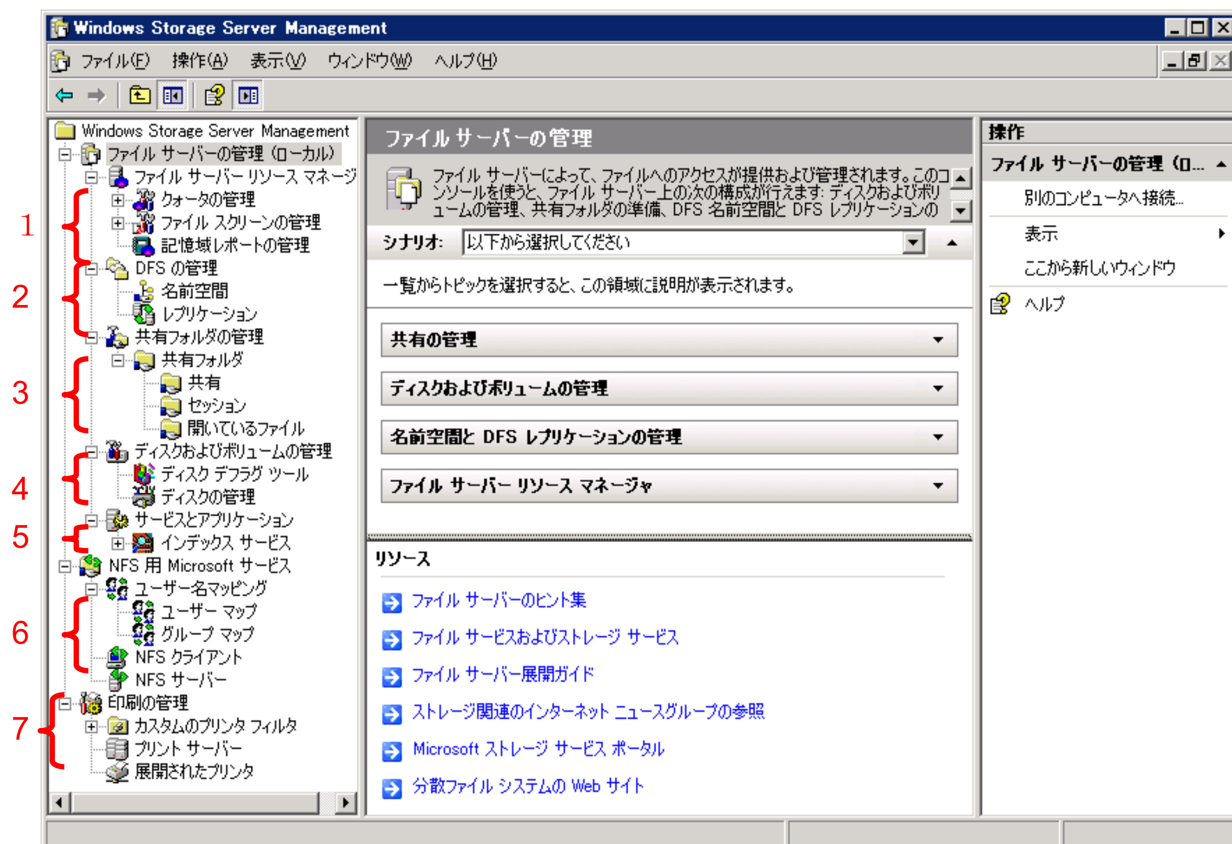
導入フロー図

1.4 ユーザインターフェイス

Windows Storage Server 2003 R2 では、固有のユーザインターフェイス(Windows Storage Server Management)を用意しています。

1.4.1 ユーザインターフェイスの起動

Windows Storage Server Management は、管理 PC からリモートデスクトップ経由で iStorage NS にログオンすると自動起動します。また、ディスプレイ、キーボード、マウスを接続して直接ログオンしても同じです。自動起動しなかった場合や画面を閉じた後に再度起動させる場合は、デスクトップ上の管理者メニューを使用してください。



1 ファイルサーバーリソースマネージャ

クォータの管理	指定したディレクトリごとにクォータ制限を設定します
ファイルスクリーンの管理	指定したディレクトリに保存するファイルの種類を制限します
記憶域レポートの管理	指定したディレクトリのファイル構成のレポートを HTML、TXT などの形式で出力します。また、レポートはメールで送信することもできます。

2. DFS の管理

名前空間	DFS ルートの管理
レプリケーション	バックアップ目的のファイル複製・管理

3. 共有フォルダの管理

共有	Windows 共有と AppleTalk 共有の設定を行ないます
セッション	iStorage NS にアクセスしているコンピュータ、ユーザー名を表示します
開いているファイル	ローカルディスク上の開かれたファイルを表示します

4. ディスクおよびボリュームの管理

ディスクデフラグツール	断片化したファイルを最適化します
ディスクの管理	パーティションの作成／削除、フォーマットを行ないます。
SAN 用記憶域マネージャ（注）	本機能は iStorage NS シリーズではご使用になれません。 iStorage S シリーズの管理には「WebSAM iStorageManager」をご使用ください。

（注） ご利用のモデルによっては表示されません

5. サービスとアプリケーション

インデックスサービス	コンテンツやプロパティのインデックス作成および検索を行ないます

6. NFS 用 Microsoft サービス

Linux や Unix クライアントから iStorage NS にアクセスできます

7. 印刷の管理

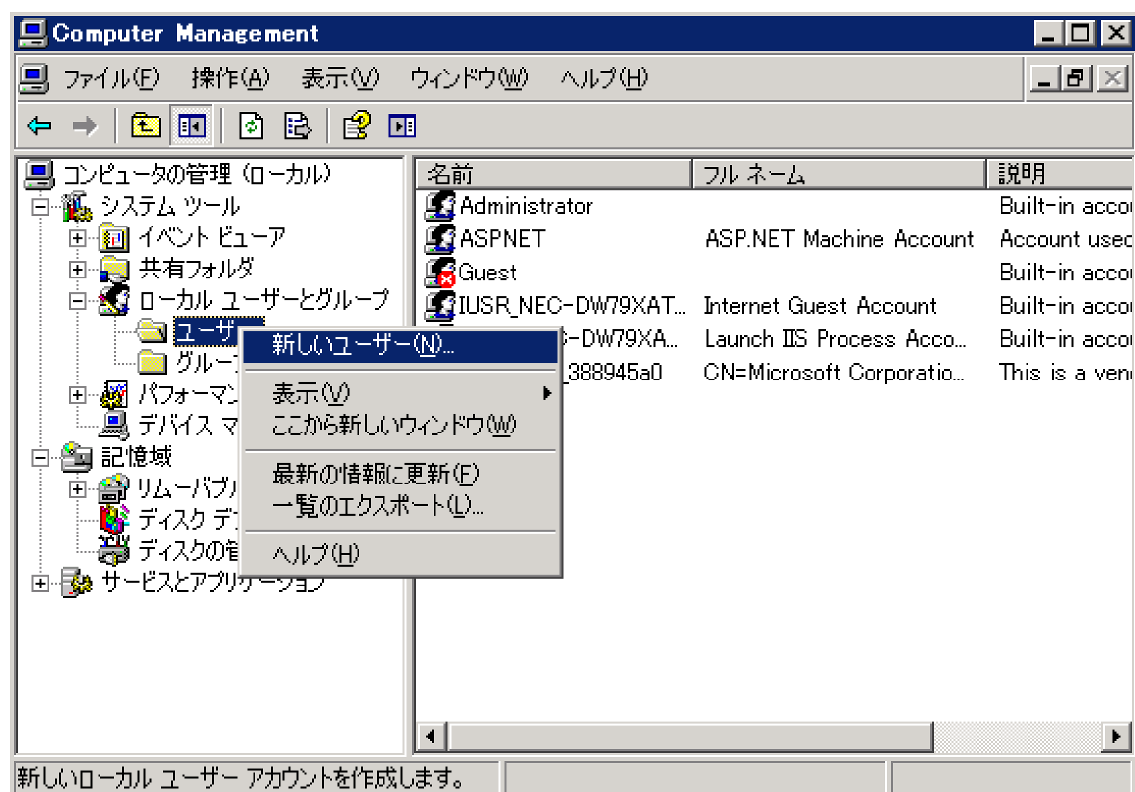
SMB、NFS、AppleTalk 経由で印刷を実行できます。

1.5　ユーザ/グループ管理

iStorage NS をワークグループでご使用の場合、以下の手順でローカルユーザとグループを設定してください。iStorage NS をドメインに参加させ、メンバサーバとして使用する場合は、ローカルユーザやグループを設定する必要はありません。

1.5.1　ローカルユーザの作成

1. 管理 PC よりリモートデスクトップを起動し、iStorage NS に接続します。
2. 管理者権限のアカウントを使用してログオンします。
3. [スタート] → [管理ツール] → [コンピュータの管理] をクリックします。
4. [ローカルユーザーとグループ] を展開します。
5. [ユーザー] を右クリックし、[新しいユーザー] をクリックします。



6. 以下の画面で、ユーザ名、パスワード等を環境に応じて設定し、[作成] ボタンをクリックします。

新しいユーザー
ユーザー名(U): t-yamada
フル ネーム(F): 山田太郎
説明(D): 総務部
パスワード(P): ******
パスワードの確認入力(C): ******
ユーザーは次回ログオン時にパスワードの変更が必要(M)
ユーザーはパスワードを変更できない(S)
パスワードを無期限にする(W)
アカウントを無効にする(B)
作成(E) 閉じる(O)

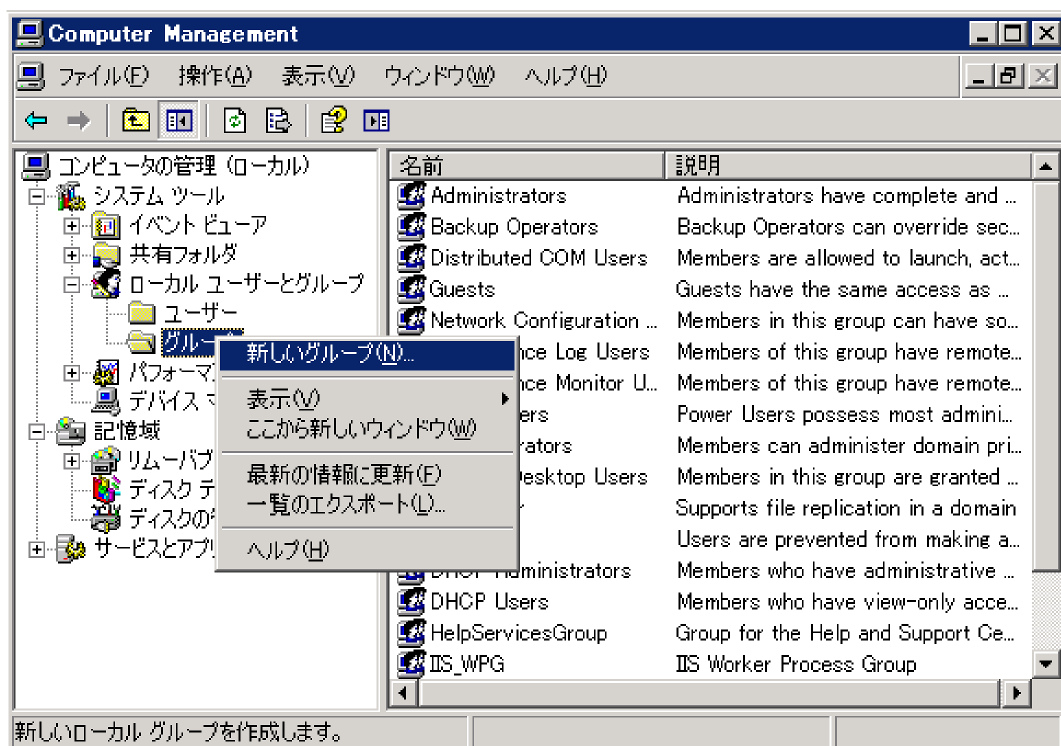
7. 作成が終了したら [閉じる] ボタンをクリックします。

その後、作成したユーザのプロパティを開き、所属するグループ等必要に応じて設定してください。

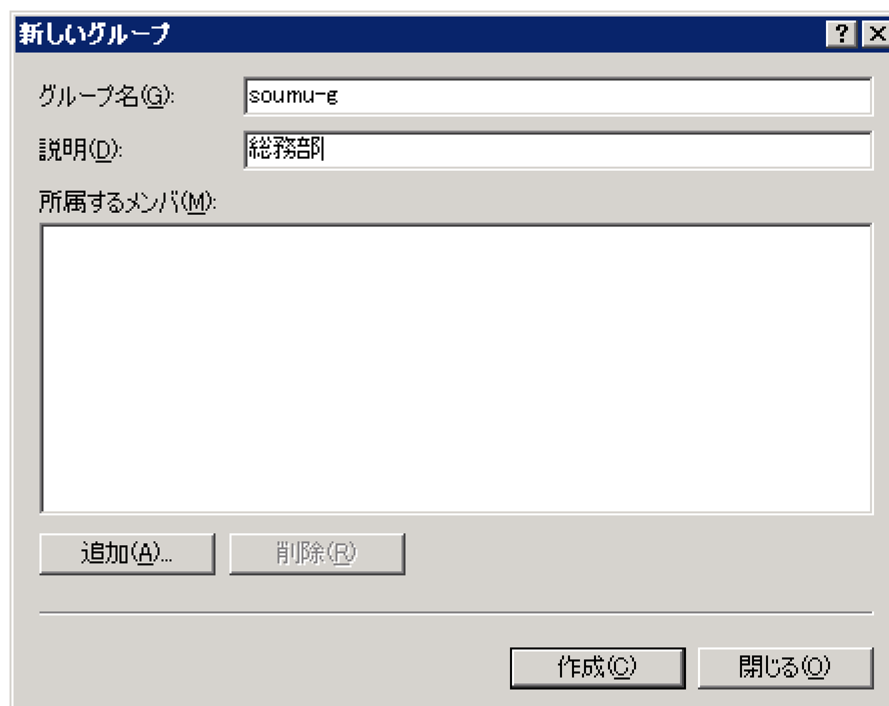
1.5.2 ローカルグループの作成

1. 管理 PC でリモートデスクトップを起動し、iStorage NS に接続します。
2. 管理者権限のあるユーザーでログオンします。
3. [スタート] → [管理ツール] → [コンピュータの管理] をクリックします。
4. [ローカルユーザーとグループ] を展開します。

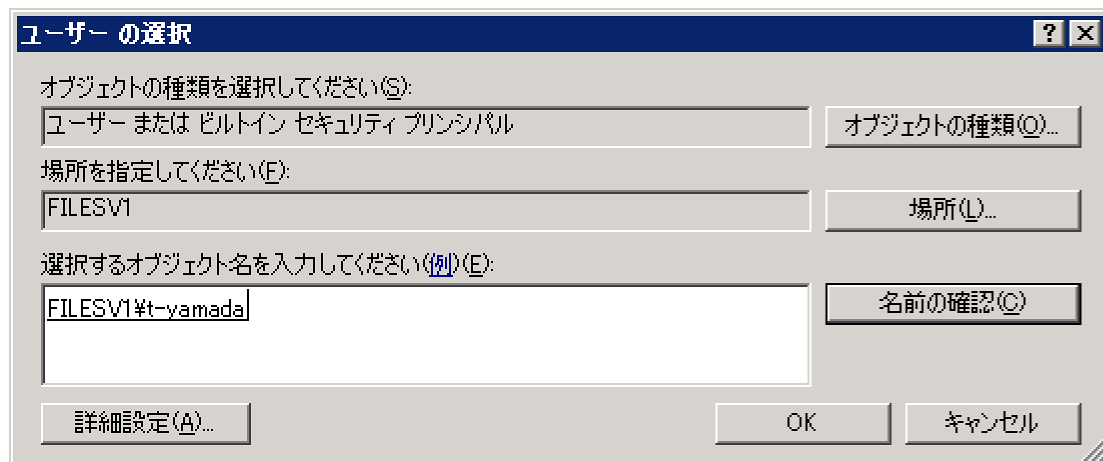
5.　[グループ] を右クリックして [新しいグループ] をクリックします。



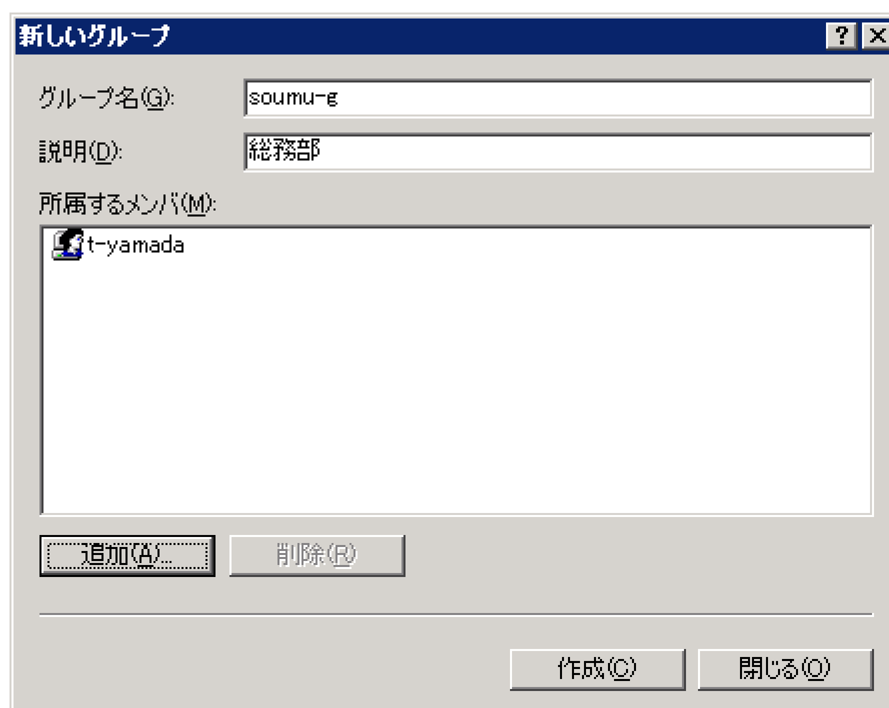
6.　以下の画面でグループ名、説明（任意）を入力します。このグループに追加するユーザを指定するため、[追加] ボタンをクリックします。



7. [ユーザーの選択] 画面で、追加するユーザを指定し、[OK] ボタンをクリックします。



8. [所属するメンバ] に指定したユーザが表示されていることを確認して [作成] ボタンをクリックします。



9. グループの作成が完了したら [閉じる] ボタンをクリックして終了します。

その後、作成したグループのプロパティを開き、必要に応じて設定してください。

1.6　ディスクの管理

ディスクの管理では、パーティションとボリュームの作成、それらのフォーマット、ドライブ文字の割り当てなど、ディスクに関連した基本的なタスクを実行できるだけでなく、フォールトトレラントなボリュームの作成と修復など、高度な作業も実行できます。ここでは、ボリュームの作成方法を説明しますが、その他の機能の操作方法はオンラインヘルプをご参照ください。



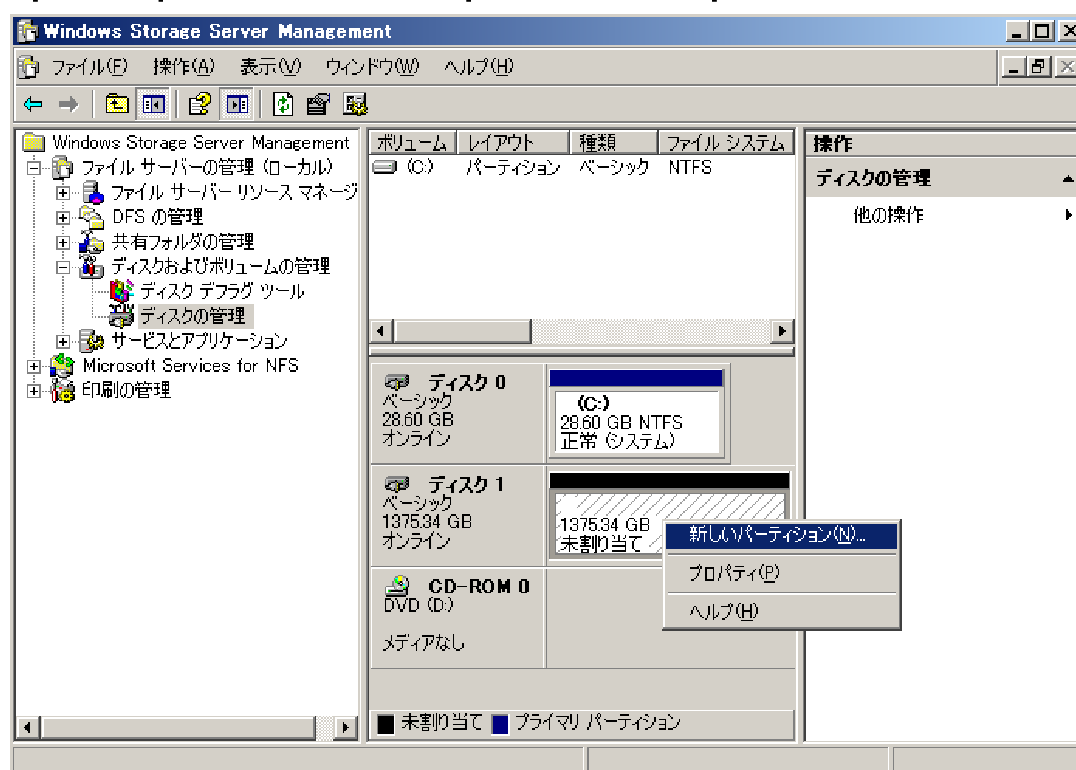
iStorage NS シリーズでは「SAN 用記憶域マネージャ」はご使用になれません。

iStorage S シリーズの管理には「WebSAM iStorageManager」をご利用ください。

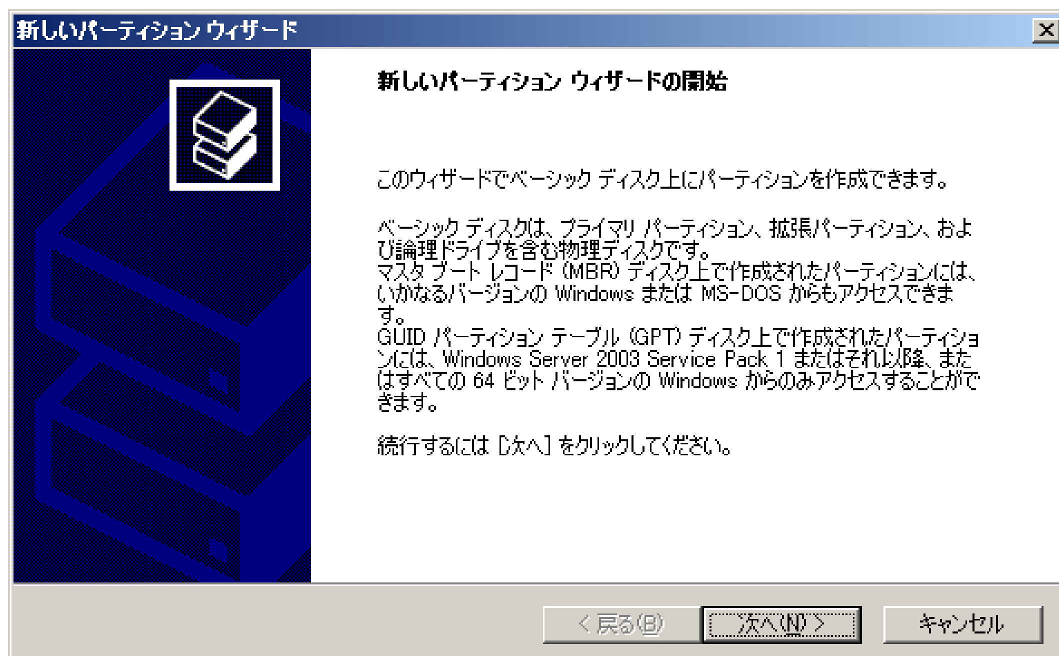
1.6.1　ボリュームの作成

1. [Windows Storage Server Management] 画面で　[ディスクおよびボリュームの管理] → [ディスクの管理] をクリックします。

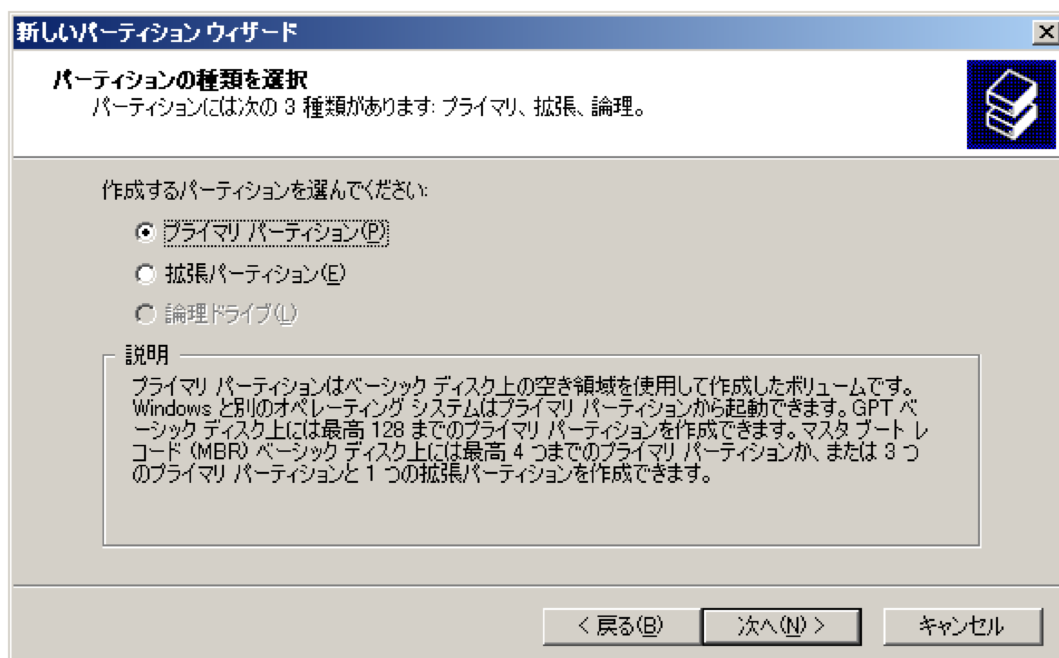
2. [未割り当て] の領域を右クリックして、[新しいパーティション] をクリックします。



3. [新しいパーティションウィザード] 画面が表示されますので、[次へ] ボタンをクリックします。



4. パーティションの種類を選択して [次へ] ボタンをクリックします。



5. パーティションサイズを指定して [次へ] ボタンをクリックします。

新しいパーティション ウィザード

パーティション サイズの指定
最小サイズと最大サイズの間でパーティションのサイズを選択してください。

最大ディスク領域 (MB): 1408346
最小ディスク領域 (MB): 8
パーティション サイズ (MB)(P): 1408346

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

6. 必要に応じてドライブ文字を指定し、[次へ] ボタンをクリックします。

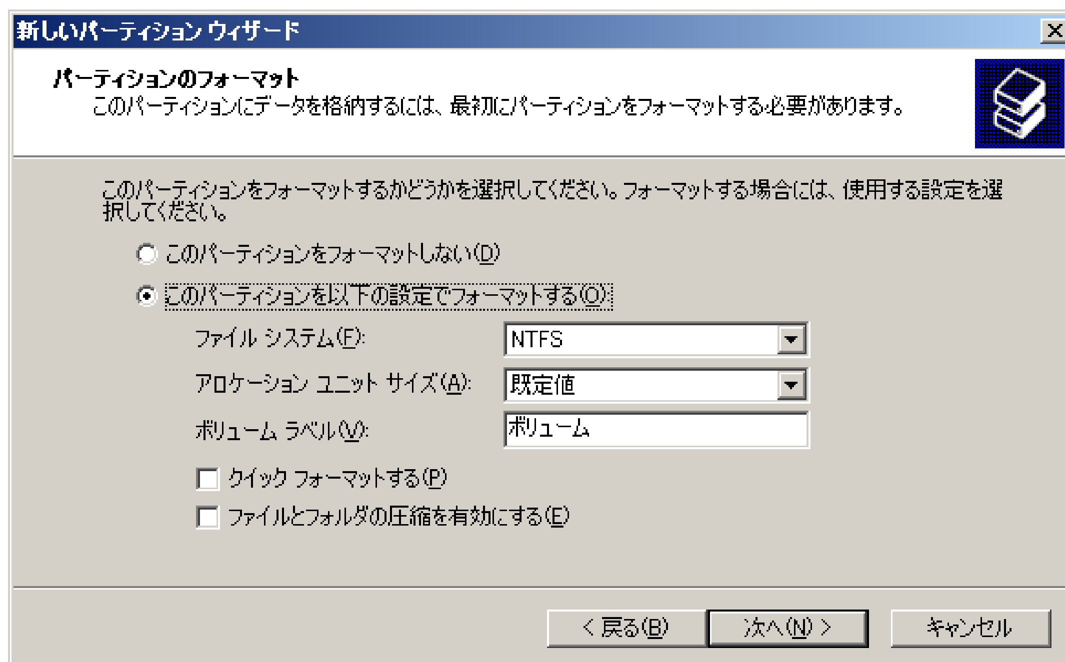
新しいパーティション ウィザード

ドライブ文字またはパスの割り当て
アクセスを簡単にするために、ドライブ文字またはドライブ パスをパーティションに割り当てることができます。

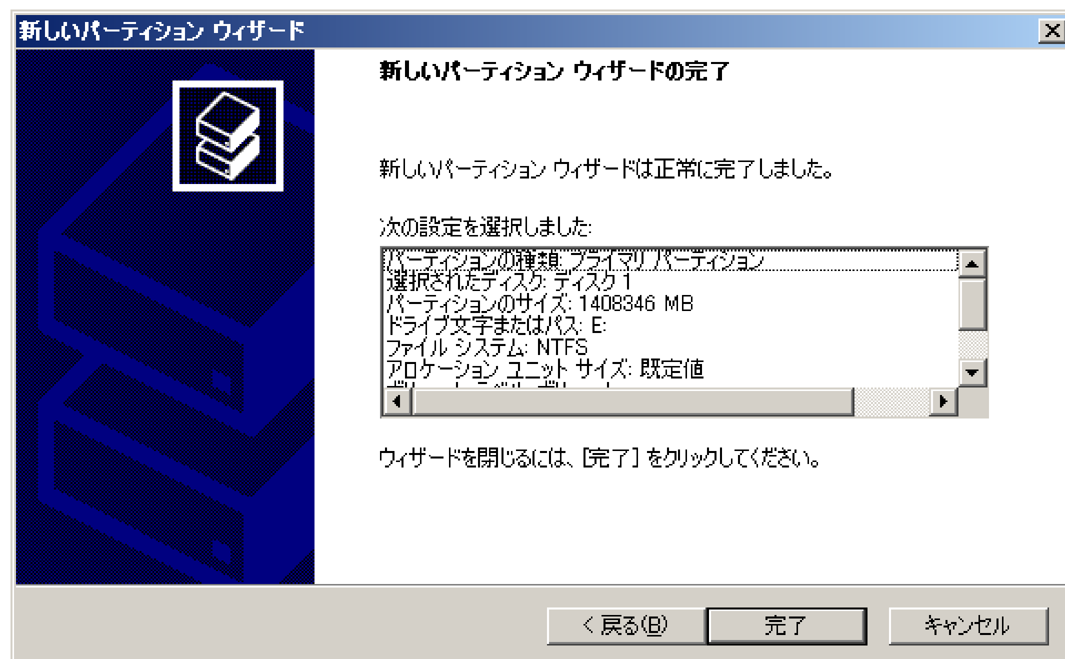
次のドライブ文字を割り当てる(A): E
次の空の NTFS フォルダにマウントする(M):
参照(R)...
ドライブ文字またはドライブ パスを割り当てない(D)

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

7. フォーマットの有無を設定して [次へ] ボタンをクリックします。今回作成するパーティションにシャドウコピーを設定し、デフラグも実行する可能性がある場合は、[アロケーションユニットサイズ] を [16KB] 以上に変更します。



8. 設定に間違いがなければ、[完了] ボタンをクリックします。



9. 作成したボリュームの状態が [正常] になれば作業は完了です。エクスプローラ等でボリュームが表示されることを確認します。もしボリュームが表示されない場合は、システムを再起動してください。

